四国大学アセスメントポリシーによる情報の公表

令和7年4月 四国大学教育改革推進員会

- (1)四国大学・四国大学短期大学部では、これからの社会を担い、新しい時代を切り拓いて社会をリードする人材を育てるため、これまで実施してきたカリキュラムを進化させ新しい時代にあった教育プログラムを策定し、2020年4月から開始しています。
- (2) このプログラムの教育の質を高めるためには、本学の三つの方針※1(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入の方針)に基づく体系的で組織的な大学教育を、プログラム共通の考え方や尺度(アセスメントポリシー※2)を踏まえて適切に点検・評価し、継続的な改善に取り組む必要があります。
- (3)本学のアセスメントポリシーは、三つの方針を基に学生の学修成果に関する情報を的確に把握・ 測定し、教育活動の見直し等に適切に活用するとともに、大学全体の教育成果を広く社会や企業 等の外部からの理解を得るため、その成果等を毎年公表することとしています。
 - ※1 三つの方針 (3ポリシー) の内容については以下のサイトをご参照ください。 https://www.shikoku-u.ac.jp/education/3policy/ (四国大学 Top > 教育・研究 > 3つのポリシー)
 - ※2 アセスメントポリシー … 学生の学修効果 (アセスメント) について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等について定めた学内の方針。

【入学前・入学時の検証・評価について】

四国大学では、アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)に則した入学試験となっているかについて、学内での調査結果をもとに次の2項目について検証・評価を行っています。

① 各入学試験の成績

(1) 総合型選抜

総合型選抜の入試には、高大接続入試(セミナー活用タイプ・活動履歴活用タイプ)・自己実現入試・分野別入試と3種類の入試がある。選抜は、それぞれ学部によって異なった方法をとっている。ここでは、選抜方法の二つの要素を取り出して相関関係を数値化し、その特徴を検証した。『面接と調査書』の相関関係を見ると、高大接続入試の文学部、生活科学部、看護学部のセミナー型、短期大学部の活動履歴型において、ほぼ相関が認められる。また、『小論文と調査書』では、対象者の少ない高大接続入試(活動履歴活用タイプ)の看護学部と自己実現入試においてやや右肩下がりを示しているが、それ以外の入試・学部においては、ほぼ相関が認められる。

(2) 推薦入試と一般入試

推薦入試は、筆記試験、面接、調査書及び推薦書等を総合して選抜している。推薦入試では、 短期大学部を除くすべての学部において、相関が認められる。また、文学部と看護学部では、幅 広く度数分布をしており、多様な学生の実態が伺える。

一般入試は、筆記試験と調査書によって合格者を決定している。文学部及び看護学部において 良好な近似線となっており、相関関係が認められる。

<検証・評価結果>

各種入学試験成績については、筆記試験においては、各教科の平均点目安とする 60 点(±2.5 点)を中心に散らばっている。小論文については、合否ラインの目安として 60 点を設定しているが、各平均点は 70~80 点の間となっており、妥当な結果であると考える。

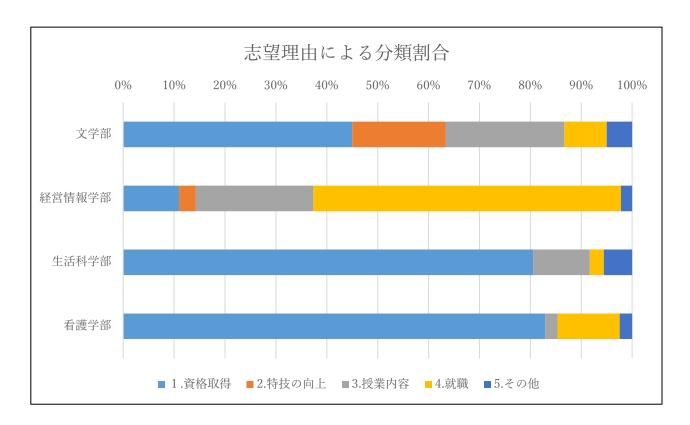
入試成績と調査書との相関関係については、おおよその学部において入試成績と調査書は正の 相関を示している。

② 志願理由

総合型選抜入試における受験生の志願理由について、志望動機を次の5つに分類しました。

- 1. 資格取得(教員、公務員、司書など)
- 2. 特技の向上(書道など)
- 3. 授業内容(大学の授業に興味がある)
- 4. 就職のため
- 5. その他(文化交流、ボランティア活動、他活動など)

志望動機別に分類した学部毎の志願理由の割合は次のとおりです。



<検証・評価結果>

文学部では、教育職員や司書等の「1. 資格取得」が志望理由として多くなっているが、「3. 授業内容」に興味を持って入学している学生も多く、学部ならではの特徴がでている。経営情報学部においては、社会に近い学部として「4. 就職のため」とする学生が多く、その役割を果たしているといえる。また、実学を主とする健康栄養学科、児童学科を抱える生活科学部や看護学部では、「1. 資格取得」が群を抜いている。「1. 資格取得」についても最終的には「4. 就職のため」と考えられるため、大学として就職指導に注力し、就職率を限りなく 100%に近づけることが肝要である。

【在学中の学修状況の検証・評価について】

四国大学では、在学中にカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)に則した学修となっているかについて、次の 10 項目について検証・評価を行っています。検証用データとしては、学内での調査及び大学 IR コンソーシアム調査※結果を使用しています。

※大学 IR コンソーシアム調査(以下「大学 IR 調査」といいます。)

IR(Institutional Research)とは、大学の計画立案、政策形成、意思決定に寄与することを目的として、大学に関係する様々な情報を収集、分析する活動のことです。この IR を効果的に実施するために、全国 64 の国公私立大学が加盟して「大学 IR コンソーシアム」を形成しています。このコンソーシアムでは、毎年、加盟大学の 1 年生及び上級生(3 年生)約 10 万人の学生を対象に、学修状況や満足度に関する共通設問アンケートを実施し、その結果を持ち寄って集計、分析しています。本学も毎年、全学生がこの調査に参加しており、約 90%の学生から回答を得ています。また、大学 IR コンソーシアムでは、2019 年度から卒業生調査にも取り組んでおり、本学では卒業後5 年を経過した卒業生を対象に卒業生アンケートを実施しています。

① 学生の年間修得単位数

本学の卒業に必要な単位数は、大学 124 単位 (看護学科 125 単位)、短期大学部 62 単位となっています。また、大学でもっと多くのことを学びたいと望む学生や将来の就職に向けて免許や資格の取得を目指す学生には、それに必要な単位を取得することができます。

本学では、過剰な履修をせず、各科目に対する十分な学習時間を確保するために、学生が1年間に 履修科目として登録できる上限を、次のように定めています。

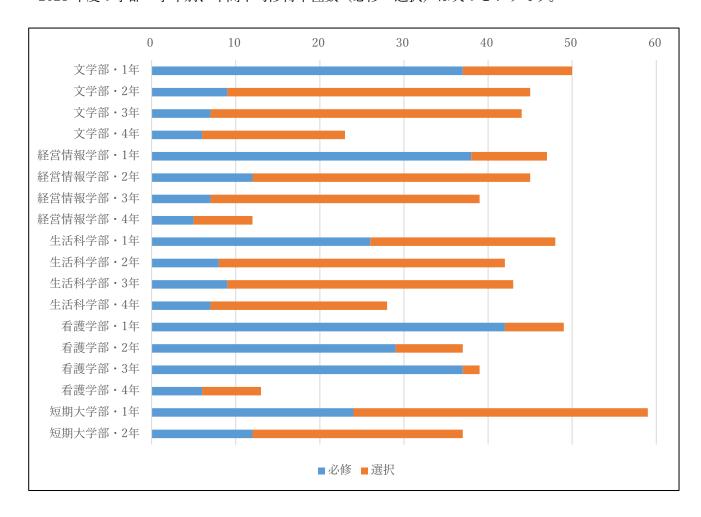
学部/学年	1年	2年	3年	4年
文学部	48	48	48 (48)	41 (48)
経営情報学部	48	48	48 (48)	36 (48)
生活科学部	48	48	48 (48)	48 (48)
看護学部	48	48	48 (48)	41 (48)
短期大学部	50	50		

※()内は編入学生

※自由科目は上限単位数に含みません。

※成績優秀者等は、教授会の議を経て適用が一部除外される場合があります。

・ 2023 年度の学部・学年別、年間平均修得単位数(必修・選択)は次のとおりです。



<検証・評価結果>

学部別の平均修得単位数は、卒業見込に必要な単位数を満たしている。しかし、学科別に見るとわずかながらではあるが、修得単位数が履修上限単位数を上回っている学科がある。また、修得単位数と GPA を比較すると、修得単位数が 50 以上の学生において GPA 平均値が低下している傾向がみられる。計画的な単位取得ができていない学生に対して、履修指導等に一層力を入れる必要がある。

② 成績評価(GPA)について

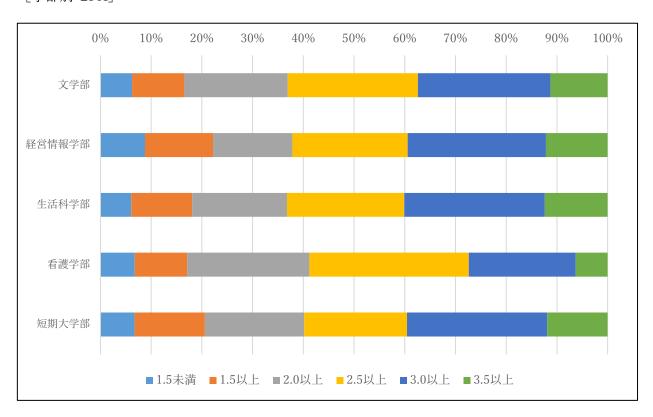
GPA(Grade Point Average)は、履修科目ごとに成績評価(秀、優、良、可、不可)と単位数に応 じたポイントを付与し、その合計を履修総単位数で除することで、履修1単位当たりの成績を数値化 したものです。具体的には、以下の計算式によって算出されます。

本学では、GPA を基に各種奨学金の採用や継続等の判定、交換留学生の選抜や表彰者等の選出をす るほか、GPA が低い学生に対する学習指導や履修上限単位数を超える履修可否の判定などに活用し ています。また、学外においても就職試験や助成金の選抜等で学生の学力や学習に対する姿勢を測る 指標のひとつとして広く活用されています。

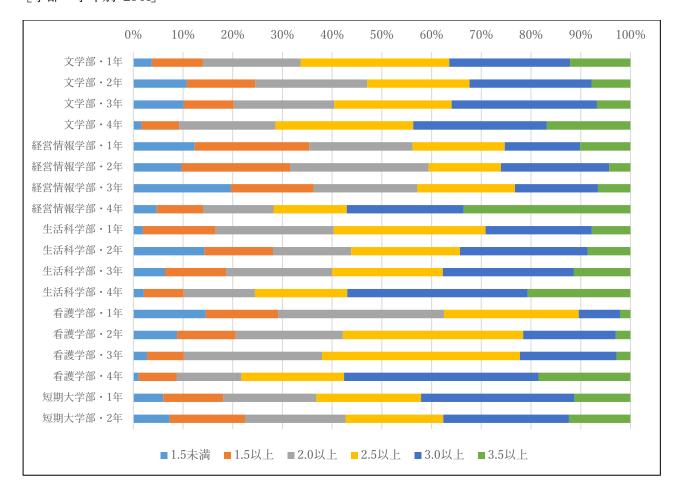
素点	評価	QPI *1	QP *2	GPA
90~100	秀	4.00		
80~89	優	3.00		QP の合計
70~79	良	2.00	QPI×単位数	
60~69	可	1.00		履修科目の単位数の合計
60 未満	不可	0.00		

・ 2023 年度の学部別、学部・学年別 GPA (単年度の GPA) の分布は次のとおりです。

[学部別 GPA]



[学部・学年別 GPA]



<検証・評価結果>

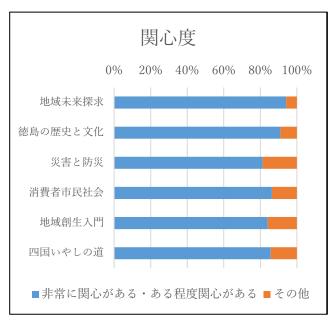
2023 年度の年間 GPA は、基準値とする 2019 年度に対し看護学部のみが高い結果となった。学部 毎の平均値の分布においては、経営情報学部、生活科学部、看護学部の 3 学部おいて卒業年度に大き く上昇していることが特徴である。一方、短期大学部では、平均的に高い値ではあるが、学年別でみると卒業年度の方が低くなっている。 GPA 指標の信頼性と効果的な活用に向けて、学習成果の進捗 状況を GPA でも確認できるよう、評価基準の適正な設定と共通理解を進めていきたい。

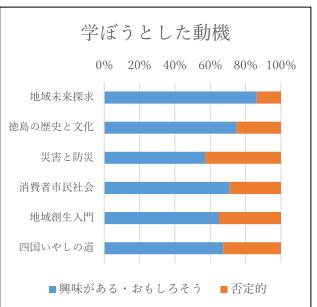
③ 地域教育プログラムの関心度

地域教育プログラムは、これからの地域社会で地域創生を担う学生が、地域の課題を解決するための 知識や技術を体系的に学ぶことができるよう開発された教育プログラムです。

この地域教育プログラムは、全学共通科目の地域連携科目、学生の自主活動を基にした自由科目、地域志向型の専門科目及び新『あわ学』への取り組みなどの地域研究で構成されています。

・2023 年度に「地域連携科目(全学共通科目)」を履修した学生のうち、地域連携科目について「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と回答した者及びこれらの科目を学ぼうとした動機について「興味がある」「おもしろそう」と回答した者の割合は次のとおりです。





<検証・評価結果>

全学共通科目の中に「地域連携科目」として6科目が開講されている。これらの科目は、地域の 課題を解決するための知識・技術を身に付け、授業を通じて地域教育への関心度を高めていくこと をねらいとしている。

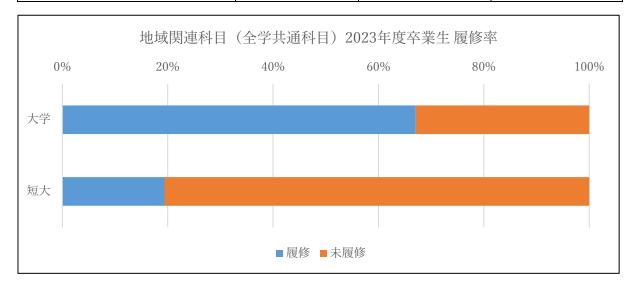
2023 年度の学生対象のアンケート結果によると、受講後、地域教育に関心をもった学生は「災害と防災」「消費者市民社会」「地域創生入門」「四国いやしの道」では80%以上、「地域未来探求」「徳島の歴史と文化」では90%以上であった。全科目の平均値は86.5%と基準値とする2019年度の82.0%を4.5ポイント上回る結果となった。

また、「地域連携科目」を学ぶ動機として「興味がある」または「おもしろそう」と回答した学生の割合は高く5科目が目標値を上回る結果となっており、全科目の平均値でも目標値を 3.0 ポイントも上回る結果となった。

④ 地域教育科目の履修状況

・2023 年度の大学・短期大学部別の、地域連携科目(全学共通科目)の履修者数と 2023 年度卒業生におけるこれらの科目の履修率は次のとおりです。

科目名	開講期	履修者数			
件日石	用神粉	大学 (人)	短期大学部 (人)	計 (人)	
地域未来探求	後期	50	6	56	
徳島の歴史と文化	前期	120	6	126	
徳島の歴史と文化	後期	94	4	98	
災害と防災	後期	72	3	75	
消費者市民社会	前期	133	6	139	
地域創生入門	前期	66	1	67	
四国いやしの道	後期	122	2	124	
計 (人)		657	28	685	



※地域関連科目履修率 = 在学中に地域連携科目を1科目以上履修した卒業生の人数 全卒業生数

<検証・評価結果>

地域連携科目は、いずれの科目も定員に上限を設け、抽選により受講者を決定している。2023 年度は「消費者市民社会」と「地域創生入門」の2科目で目標値を達成することができた。しかし、「地域未来探求」「徳島の歴史と文化」「災害と防災」「四国いやしの道」については目標値を下回る結果となった。これは、履修登録後に専門科目との重複や上限単位数の超過等の理由により、履修の取消しをする受講生がいたことが影響していると考えられる。これは、特に後期の開講科目で多くみられたため、開講期の検討及び履修指導のサポートなどを行っていきたい。

⑤ 全学的なクラブ・サークルへの参加状況

環境や考え方の異なった者同士がクラブやサークル等に参加することで、自由と規律、義務と責任を重んずる中で社会生活を営むための基礎がつくられ、人間関係を育成し、学生生活をより充実したものにします。

本学には、体育系 33、文科系 26 のクラブがあります。また、クラブの他に同好会等のサークルもあり、活発な課外活動を展開しています。

・2023年度の大学・短期大学部、体育系・文化系別のクラブ・サークルへの参加者数と参加率は次のとおりです。

	体育系		文化系		計	
	参加者数(人)	参加率	参加者数(人)	参加率	参加者数(人)	参加率
大学	559	23.2%	781	20.0%	1,340	43.2%
短期大学部	29	8.9%	38	11.7%	67	20.6%

<検証・評価結果>

課外活動への参加率は、大学が 43.2%、短期大学部が 20.6%であり、昨年度より大学は 4 ポイント、短期大学部は 0.4 ポイントの減となった。コロナ禍の活動停止期間から回復できていないクラブやサークルが多くあり、特に部員数の少ない団体においては活動が衰退している。一方で、時代の流行に沿ったクラブ等は活発化しているため、学生の興味・関心がある分野のクラブ等の設立や書道文化学科と書道部といった学科とクラブを一体化した活動を考えるなど、クラブ・サークルへの参加率向上に繋げていきたい。

⑥ ボランティア活動、地域貢献活動の状況

本学では、学生の地域貢献活動やボランティア活動への積極的な参加を促すため、学生一人ひとりに『SUDAchi カード』を発行し活動時間を記録しています。『SUDAchi カード』に記録された活動時間が 60 時間や 120 時間(短期大学部は 30 時間や 60 時間)に達し、活動に関するレポートや報告書を提出して内容が認められれば、それぞれ「地域貢献・ボランティア活動 I 」、「地域貢献・ボランティア活動 II 」といった地域教育関連科目(自由科目)の単位が認定されます。

また、学生ボランティアコーディネーターとスーパーバイザーの教員によって自主的に運営されている『学生ボランティア活動支援室』もあり、『SUDAchi カード』を発行・運用する地域教育・連携センターと連携し、学生がボランティア活動をスムーズに展開できるよう、地域社会におけるニーズと活動したい学生のシーズをコーディネートしています。

学生によるボランティア活動の具体例としては、「人とサル共生プロジェクト~木頭ゆずちぎりたい (隊)!」「徳島県議会議事堂で書道パフォーマンス」「勝浦さくらまつり (運営ボランティア)」といった活動が挙げられます。

・ 2023 年度在学生の、大学・短期大学部別の、SUDAchi カード発行者数、ボランティア活動参加者数、ボランティア活動総時間数、年間一人当たり平均時間数は次のとおりです。

	大学	短期大学部
SUDAchi カード発行者数(人)	118	9
ボランティア活動参加者数 (人)	61	6
ボランティア活動総時間数 (時間)	1157	132
年間一人当たり平均時間数 (時間)	18.97	22.00

・ 2023 年度在学生の大学・短期大学部別の地域教育関連科目(自由科目)の単位認定者数は次のとおりです。

	大学	短期大学部
地域貢献・ボランティア活動 I (人)	20	4
地域貢献・ボランティア活動 II (人)	10	3
計	30	7

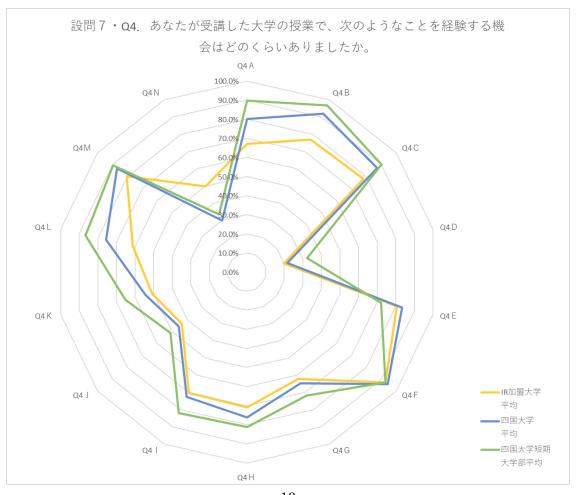
<検証・評価結果>

ボランティア参加者数のうち、2023 年度の単位認定者数は、2019 年度の 32.5%を 22.7 ポイント上回る 55.2%となった。これは、コロナ禍で活動を制限されていた学生が 2022 年度から徐々に活動時間を積み上げていき、2023 年度に単位認定に必要な時間を達成した学生が多くなった結果であると考えられる。

⑦ 学修状況調査(IR 調査)

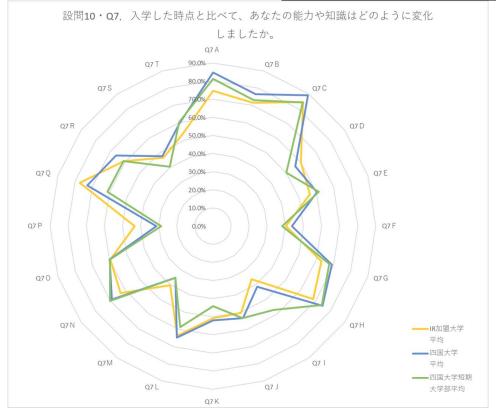
・ 2023 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q4「あなたが受講した大学の授業で、 次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか」に対する、肯定的回答者率は次のとおり です。

設 問	IR 加盟 大学	大学	短期 大学部
A 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	67.0%	80.1%	89.8%
B 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	77.1%	92.0%	96.9%
C 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	78.2%	87.3%	90.2%
D 授業の一環でボランティア活動をする	19.8%	21.6%	32.3%
E 学生自身が文献や資料を調べる	80.4%	83.3%	72.0%
F 定期的に小テストやレポートが課される	92.7%	94.2%	92.7%
G 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	62.2%	64.8%	71.9%
H 学生が自分の考えや研究を発表する	70.8%	76.2%	81.2%
I 授業中に学生同士が議論をする	70.3%	72.7%	81.9%
J 授業で検討するテーマを学生が設定する	43.5%	45.7%	51.0%
K 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	50.9%	54.3%	65.2%
L 取りたい授業を履修登録できなかった	61.3%	75.5%	86.7%
M 出席することが重視される	80.4%	86.9%	89.5%
N TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	49.8%	29.9%	33.5%



・ 2023 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q7「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR 加盟大学	大学	短期大学部
A 一般的な教養	74.7%	84.6%	81.2%
B 分析力や問題解決能力	71.5%	76.5%	72.9%
C 専門分野や学科の知識	84.6%	89.3%	84.3%
D 批判的に考える能力	60.0%	56.2%	50.0%
E 異文化の人々に関する知識	56.3%	60.3%	61.5%
F リーダーシップの能力	40.2%	43.6%	38.3%
G 人間関係を構築する能力	62.9%	69.2%	67.6%
H 他の人と協力して物事を遂行する能力	68.4%	74.8%	74.3%
I 異文化の人々と協力する能力	36.3%	41.5%	57.1%
J 地域社会が直面する問題を理解する能力	50.3%	53.5%	53.3%
K 国民が直面する問題を理解する能力	50.9%	52.1%	44.1%
L 文章表現の能力	63.6%	64.6%	58.5%
M 外国語の運用能力	40.3%	35.2%	35.2%
N コミュニケーションの能力	63.1%	68.9%	70.1%
〇 プレゼンテーションの能力	59.4%	59.9%	59.7%
P 数理的な能力	43.2%	31.1%	28.6%
Q コンピュータの操作能力	77.2%	72.9%	61.3%
R 時間を効果的に利用する能力	60.8%	66.2%	61.0%
S グローバルな問題の理解	46.7%	47.7%	40.6%
T 卒業後に就職するための準備の度合い	53.5%	59.6%	60.1%



<検証・評価結果>

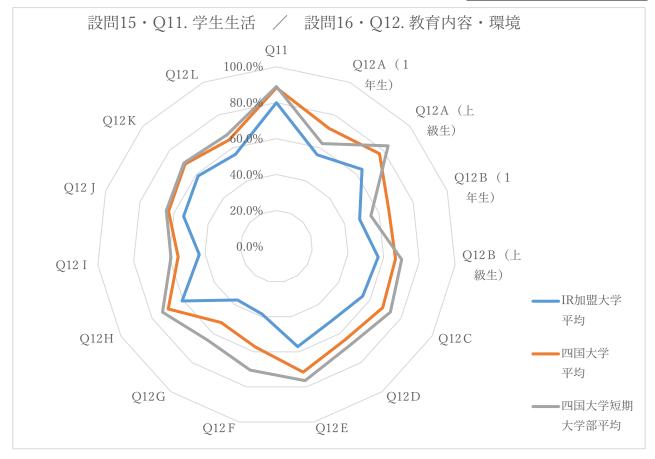
「あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか」の設問に対し、多くの項目において本学の平均値が IR 加盟大学の平均値を上回っており、工夫した授業運営であることが確認できる。しかし、一方で「取りたい授業を履修登録できなかった」「TA や SA などの授業補助者から補助を受ける」設問については評価が低く、今後改善を要する。

また、「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」の設問については、「分析力や問題解決能力」「異文化の人々に関する知識」「人間関係の構築力」「コミュニケーション能力」といった点においてIR加盟大学より高い平均値となっているが、「批判的に考える力」や「外国語の運用能力」等については下回っているため、結果を共有し授業運営の工夫に繋げたい。

⑧ 学生満足度調査 (IR 調査)

・2023 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q11「あなたの学生生活は充実していますか」及び Q12「あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR 加盟 大学	大学	短期 大学部
11 あなたの学生生活は充実していますか。	84.3%	89.9%	90.8%
12A (1年生) 共通教育あるいは教養教育の授業	58.4%	83.4%	68.8%
12A (上級生) 専門教育あるいは所属学科の授業	66.4%	77.7%	73.0%
12 B (1 年生) 初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)	50.8%	79.7%	64.8%
12B (上級生) 2年次または3年次を対象としたゼミ (演習) などの教育内容	59.7%	66.6%	63.2%
12C 授業の全体的な質	59.1%	69.7%	76.7%
12D 日常生活と授業内容との関連	55.4%	66.5%	71.5%
12E 将来の仕事と授業内容の結びつき	59.6%	72.1%	79.2%
12F 教員と話をする機会	42.8%	57.8%	77.4%
12G 学習支援や個別の学習指導	41.0%	52.7%	64.5%
12H 他の学生と話をする機会	64.7%	69.8%	77.7%
12 I 大学のなかでの学生同士の一体感	48.3%	57.5%	67.9%
12 J 多様な考え方を認め合う雰囲気	58.2%	63.9%	70.1%
12K 大学での経験全般について	63.2%	68.1%	73.3%
12L 1つの授業を履修する学生数	58.0%	66.8%	68.3%



・ 2023 年度の大学 IR 調査における、大学・短期大学部別の、Q13「あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか」に対する、肯定的回答者率は次のとおりです。

設 問	IR 加盟 大学	大学	短期 大学部
A 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)	66.8%	72.5%	72.5%
B 実験室の設備や器具	46.9%	57.7%	62.5%
C コンピュータの施設や設備	60.1%	71.9%	75.6%
D コンピュータの訓練や援助	54.4%	64.9%	67.6%
E インターネットの使いやすさ	52.3%	59.2%	68.2%
F 奨学金などの学費援助の制度	39.1%	59.0%	70.0%
G 健康·保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)	44.5%	51.4%	56.8%
H レクリエーション施設(ジムの設備など)	35.8%	49.9%	52.3%
I キャリアカウンセリング (就職や進学に関する相談)	40.3%	49.9%	56.1%



<検証・評価結果>

大学、短期大学部ともに IR 加盟大学の肯定的回答率の平均を 24 項目すべてで上回っている。特に「共通教育あるいは教養教育の授業」「初年次生を対象とした教育プログラムの内容」での評価の高さから、入学初年度の指導において高い評価を得ていることがわかる。また、「将来の仕事と授業内容の結びつき」「教員と話す機会」「奨学金などの学費援助制度」に対する評価も 15 ポイント以上高く、約9割の学生が学生生活は充実していると回答しており、引き続き指導・支援体制の維持・向上を図っていきたい。

9就業力達成状況

本学では、学生の在学期間を通して確かな人生観や職業観を養い、希望する職業に就くことができるよう支援を行っており、令和4年度入学生からを対象に「就業力育成自己評価シート」を運用しています。

このシートは、各学科・専攻の特性に応じて就業力の具体的な評価目標を設け、学生が大学生活を通して就業力が身に付いたかどうかを学生自身が評価します。さらに、その内容を教員が確認し、評価・検証しながら就業力に係る授業改善に役立てるものです。

就業力に係る具体的な評価の分野・項目は、次のとおりです。

[評価の分野(4分野)]

【基礎学力分野】 基礎学力・幅広い教養、情報リテラシー

【専門知識・技術分野】 専門的な知識・技術・思考力

【人間的成長分野】 自己管理力・自己表現力、確かな人生観・健全な職業観

【社会貢献実践力分野】 コミュニケーション力・チームワーク力、社会貢献力

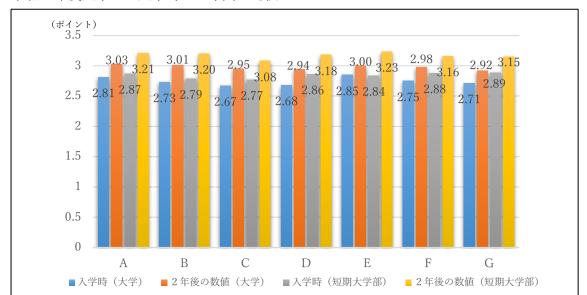
[評価項目(7項目)]

- A. 基礎学力・幅広い教養
- C. 専門的な知識・技術・思考力
- E. 確かな人生観・健全な職業観
- B. 情報リテラシー
- D. 自己管理力・自己表現力
- F. コミュニケーション力・チームワーク力

G. 社会貢献力

「自己評価(4段階)]

4. よくできている 3. ある程度できている 2. あまりできていない 1. 全くできていない



令和4年度入学生の入学時と2年間の比較

<検証・評価結果>

4分野・7項目において、令和4年度の入学生が令和6年3月までの2年間で就業力がどの程度 身に付いたかを比較すると、大学、短期大学部ともに入学時から平均で1.0ポイント上昇している。 今後も就業力の向上に繋がるよう支援していきたい。

⑩ 休学者、退学者の状況

疾病等の理由で 2 か月以上就学することができない場合、願い出により休学することができます。 休学が認められる期間は 1 年(特別な理由がある場合は 2 年)まで、通算で大学は 4 年、短期大学部は 2 年までとされています。

卒業を待たずに大学をやめるケースとしては、主として本人の意思によるもの(退学)と、授業料等の未納、在学期間や休学期間の満了等によるもの(除籍)があります。なお、授業料等の未納により除籍になった場合でも、2年以内に除籍理由が解消すれば復籍することができます。

・ 2023 年度の大学・短期大学部別の休学者数、休学率及び主な理由は次のとおりです。

休学	大学	短期大学部
休学者数 (人)	108	8
休学率	4.4%	2.4%
主な理由	①進路変更考慮中 ②就学意欲の低下 ③病気・怪我等療養	①進路変更考慮中 ②就学意欲の低下 病気・怪我等療養 進路変更考慮中

・ 2023 年度の大学・短期大学部別の退学・除籍者数、退学・除籍率と主な理由は次のとおりです。

退学・除籍	大学	短期大学部	
退学・除籍者数(人)	64	23	
退学・除籍率	2.6%	6.4%	
	①進路変更(就職)	①就学意欲の低下	
主な理由	②就学意欲の低下	②進路変更(就職)	
	③進路変更考慮中	進路変更考慮中	

<検証・評価結果>

休学率、退学率それぞれ 2.0%以下と目標を定めているが、休学率は、全学部において目標値を超過している。理由としては「進路変更考慮中」や「就学意欲の低下」などの学習面に関する内容が多いが、文学部では「海外留学」や「海外研修」などの理由も多く、一概に休学率を下げることを目標とするのではなく、個々の理由に留意しながら学習意欲の向上や進路選択に繋げていきたい。

また、退学率においても、文学部、経営情報学部、短期大学部の3学部で上限目標値を超えており、その理由として「進路変更(就職)」や「就学意欲の低下」が多くなっている。

今後は、チューターを中心に個々の事由に寄り添った支援体制を充実させたい。

【卒業時・卒業後の検証・評価について】

本学卒業時にディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を満たす人材となったかについて、次の6項目について検証・評価しています。検証用データとしては、学内での調査及び大学IR調査の卒業生調査結果を使用しています。

① 修業年限での卒業率

修業年限は、大学は4年(3年次編入学生は2年)、短期大学部は2年(長期履修学生は3年又は4年)で、在学期間は修業年限の2倍までとされています。

大学に3年以上在学し、卒業要件の単位を優秀な成績で修得した場合には、4年未満の在学での卒業 (早期卒業)が認められる場合があります。

・2023 年度卒業生における、学部別の、修業年限内での卒業者数、卒業率 (※) は次のとおりです。 (※卒業率=修業年限内での卒業生数/修業年限前の入学生数)

学部	卒業者数(人)	卒業率	
文学部	116		
経営情報学部	137	02.50/	
生活科学部	224	93.5%	
看護学部	87		
短期大学部	133	82.1%	

<検証・評価結果>

修業年限内での卒業率については、大学においては、2017 年~2019 年度の平均 87.5%に対して毎年高い水準を保っており、2023 年度も 93.5%と 6 ポイント上回っている。年度によって多少の変化はあるものの高い水準を維持することができている。一方、短期大学部では、3 か年平均 85.8%に対し、82.1%と 3.7 ポイント下回る結果となった。特に人間健康科介護福祉専攻及び幼児教育保育科において低下がみられているが、幼児教育保育科においては、国際保育者養成プログラム及び特別支援学校教諭免許取得プログラム生として 3 年次に在籍する学生がいたため、卒業率が低下したと考えられる。

② 学位授与率

本学の卒業生には、その学部、学科・専攻に従って次の学位が授与されます。

学部	学科・専攻	学位	
	日本文学科	学士 (日本文学)	
文学部	書道文化学科	学士 (書道文化学)	
	国際文化学科	学士 (国際文化学)	
奴	経営情報学科	学士 (経営情報学)	
経営情報学部 	メディア情報学科	学士 (メディア情報学)	
	人間生活科学科	学士 (人間生活科学)	
生活科学部	管理栄養士養成課程/健康栄養学科	学士 (保健栄養学)	
	児童学科	学士 (児童学)	
看護学部	看護学科	学士 (看護学)	
	ビジネス・コミュニケーション科	短期大学士(ビジネス・コミュニケーション)	
短期大学部	人間健康科 食物栄養専攻	短期大学士(食物栄養)	
	人間健康科 介護福祉専攻	短期大学士 (介護福祉)	
	幼児教育保育科	短期大学士 (幼児教育保育)	
	音楽科	短期大学士 (音楽)	

・2023 年度の卒業学年在籍者における、学部別の学位授与数、学位授与率 (※) は次のとおりです。 (※学位授与率=卒業生数/卒業学年在籍者)

学部	学位授与者数(人)	学位授与率	
文学部	122		
経営情報学部	139	94.5%	
生活科学部	230		
看護学部	89		
短期大学部	134	94.7%	

<検証・評価結果>

学位授与率については、大学は 2017 年~2019 年の 3 か年平均の 94.9%から 0.4 ポイント下回る 94.5%、短期大学部においては 3 か年平均の 94.5%から 0.2 ポイント上回る 94.7%の結果となった。本学には留年制度がなく、単位が未修得であっても卒業学年まで進級することができるため、丁寧な履修指導と修学支援を行うことにより、学位授与率の向上に繋げていかなければならない。

③ 就職希望率、就職率

本学では、4年間あるいは 2年間で望ましい職業観や勤労観を身に付け、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるため、 $1\cdot 2$ 年次の早い段階からキャリア教育科目の開設、就業力育成セミナーの開催など、積極的なキャリア教育を実施しています。

また、就職ガイダンス、学内企業研究会、就活トライツアー等の就職支援イベントを開催するほか、 個別面談や模擬面接等によるマンツーマンの指導を頻繁に実施するなど、学生一人ひとりの志望、適性 に応じた手厚い「個別就職支援」を展開しています。

・2023 年度卒業生における、大学・短期大学部別の就職希望者数、希望率(※1)及び就職者数、就職率 (※2) は次のとおりです。

(※1 希望率=就職希望者数/卒業生数)

(※2 就職率=就職者数/就職希望者数)

科目名	大学		短期大学部	
	人数(人)	率	人数(人)	率
就職希望者数・希望率	535	91.6%	115	85.2%
就職者数・就職率	521	97.4%	114	99.1%

<検証・評価結果>

2023 年度の就職率は、大学の目標値 97.8%を 04 ポイント下回る 97.4%となったが、短期大学部においては、目標値 97.6%に対して 99.1%と 1.5 ポイント上回った。また、就職希望率については、大学の目標値 93.7%に対して 91.6%で 2.1 ポイント減、短期大学部では目標値 90.7%に対して 85.2%と 5.5 ポイント減となっている。

今後は、就職ガイダンス等の在り方の見直しを行うとともに学部学科と連携し、学生の就職活動 への意欲向上を図り、就職希望率及び就職率の向上に繋げていくこととする。

④ 進学率

大学院への進学を希望する学生や、大学への編入学を希望する短期大学部生には、学修支援センターにおいて、積極的な情報提供や学修支援を行っています。特に、本学大学院への進学者には入学金の減免を行っています。また、四国大学への編入学を希望する短期大学部生には、学生一人ひとりの進路希望に応じた個別プログラムにより1年次から支援を行い、編入学後には奨励金を給付する『学内編入学支援プログラム』を実施しています。

・2023 年度卒業生における、大学・短期大学部別の、進学者数(進学希望者数)、進学率(※)は次のとおりです。

(※進学率=進学者数/卒業生数)

科目名	大学		短期大学部	
17日石	人数(人)	率	人数(人)	率
進学者数(進学希望者数)・進学率	27	4.6%	16	11.9%

<検証・評価結果>

臨床心理学、学校教育学、看護学分野への大学院進学者 27 名をはじめ、より専門的で高度な研究を希望する学生が増えている。また、昨年度に引き続き、短期大学部から大学への編入学や職業専門学校への進学者も増加傾向にある。

その結果、大学・短期大学部の合計目標値である 3.2%を 2.8 ポイント超える 6.0%の進学率となった。

⑤ 留学の実績

本学では、学生が留学によって国際感覚を育み真の国際人として活躍できるよう、長期留学生給付金、交換留学生特別奨学金等の経済的な支援や積極的な海外協定校の開拓、また、国際課からのサポート等により学生の海外留学を奨励・支援しています。

・ 2023 年度の海外の協定校は次のとおりです。

国名	協定大学数	大学名
アメリカ合衆国	2	サギノーバレー州立大学
		マーセッドカレッジ
イギリス	1	ウルバーハンプトン大学
カナダ	1	カルガリー大学
	3	浙江大学(大学院)
中国		湘潭大学 ※
		湖南財政経済学院
台湾	2	銘伝大学
口仔		大葉大学
	3	サンシャインコースト大学
オーストラリア		サザンクイーンズランド大学
		サザンクロス大学 ※
ニュージーランド	2	リンカーン大学
ーューシーソント		マッシー大学
キルギス共和国	1	ビシケク国立大学
ジョージア	1	トビリシ自由大学
ベトナム	1	ハノイ国家大学外国語大学
大韓民国	1	烏山大学校
フィリピン	1	サンカルロス大学

※ DDP (ダブルディグリープログラム)

外国の大学との協定に基づく学生の相互留学と単位互換により双方が学位を授与するプログラム。

<検証・評価結果>

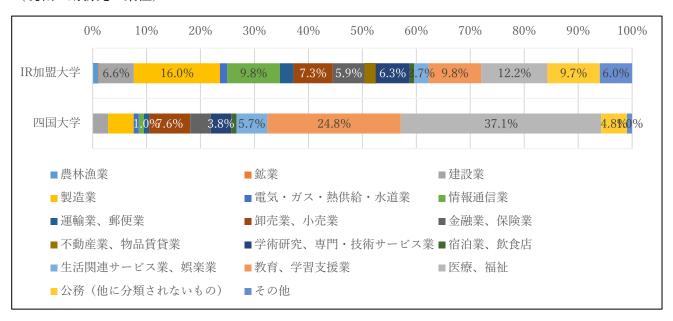
2023 年度は、円安の影響もあり長期留学生はいなかったが、短期留学生及び短期研修参加者の数が増加した。派遣数の内訳は、国際文化学科 14 名(国際文化研修)及び看護学科 21 名(看護研修)の学生をサザンクイーンズランド大学(オーストラリア)へ、国際文化学科 36 名(国際文化研修)の学生を銘伝大学(台湾)へ、短期大学部幼児教育保育科 3 名(韓国研修)及び学内募集により集まった 17 名の学生を烏山大学(韓国)へ派遣した。また、2022 年度に協定校となった、マーセッドカレッジ(アメリカ合衆国)に短期留学生 1 名を派遣した。

2023 年度の派遣学生数は合計 92 名となり、短期留学/短期研修の合計数は目標値としていた 80 名を 12 名上回る結果となった。

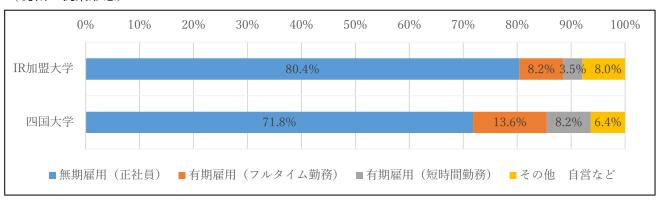
⑥ 卒業生調査 (IR 調査)

2023 年度に卒後 5 年の卒業生を対象として実施した大学 IR 調査(卒業生調査)による、卒業 5 年後の就労状況は次のとおりです。(データ数の関係で大学と短期大学部のデータを集計しています。)

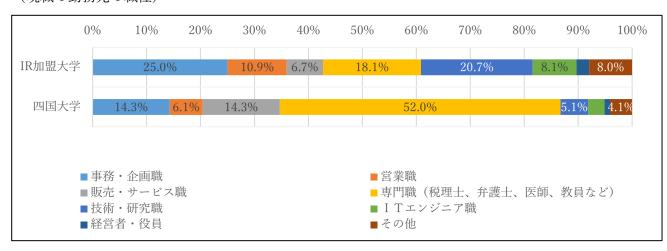
(現職の勤務先の業種)



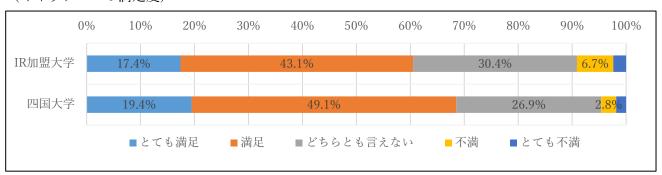
(現職の就業形態)



(現職の勤務先の職種)



(キャリアパスの満足度)



<検証・評価結果>

現職の就業形態については、無期雇用(正社員)の割合が IR 加盟大学 80.4%に対し、本学は 71.8% と 9 ポイント下回っているが、キャリアパスの満足度については、「とても満足」「満足」の割合が、IR 加盟大学の 60.5%に対し、本学は 68.5%(大学 67.9%・短期大学部 70.4%)と 8 ポイント上回っている。これは、本学における就職活動時の指導や支援、就職後の学生自身の努力が実を結んだ結果であるといえる。